

経常運転資金の基礎

経常運転資金とは、売上債権 + 棚卸資産 - 仕入債務の金額をいいます。

黒字倒産は、この経常運転資金の流れを軽視したことを原因として発生した、運転資金不足によるものがほとんどです。

経常運転資金の概要を、下図の例を使って説明します。なお残日数は、金額を日数に変換したものです。

【貸借対照表】

	金額	残日数
売上債権	60,000 千円	45.0 日
棚卸資産	18,000 千円	18.0 日
仕入債務	30,000 千円	30.0 日

【損益計算書】

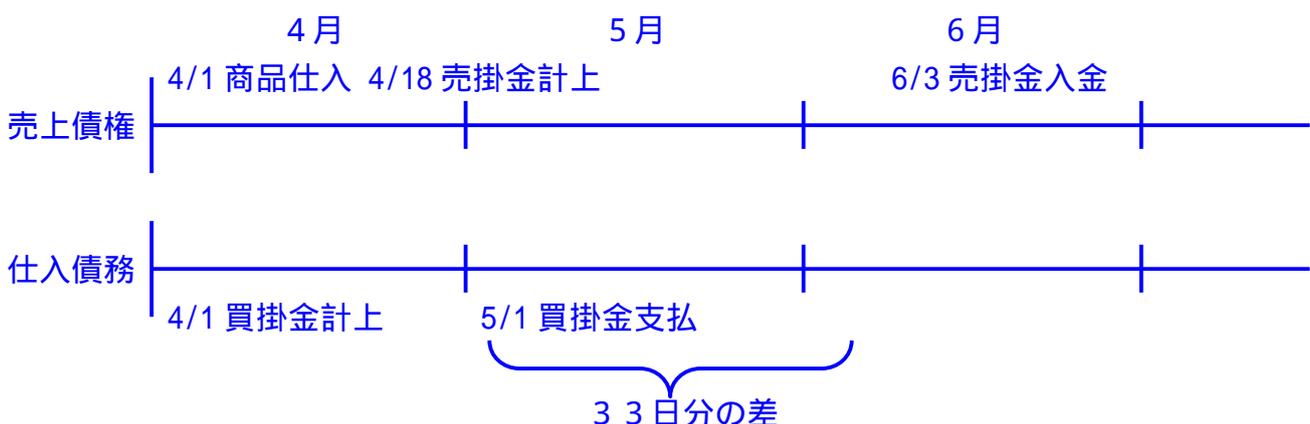
	金額
売上高	480,000 千円
売上原価	360,000 千円
売上総利益	120,000 千円

例えば、4月1日に商品を仕入れた場合、棚卸資産が18日後の4月18日に販売されることになり、売上債権は、販売された4月18日から45日後の6月3日に現金入金されることとなります。(1ヵ月を30日として計算)

一方、仕入債務については、4月1日に商品を仕入れて30日後の5月1日に現金で支払うこととなります。

商品を仕入れてから、売上債権が現金化されるまでの延べ日数が「18日 + 45日」の63日後になるのに対し、商品の仕入債務を支払うまでの日数が30日後で、「63日 - 30日」の差引33日分を早く支払うことになり、ここに毎月の経常運転資金の不足が発生することになります。

この経常運転資金の不足分である33日分を売上原価ベースで金額換算すると、33,000千円()もの金額になってしまいます。(360,000千円 ÷ 360日 × 33日)



2. 売上債権の日数改善による“現金・預金”残高

売上債権の残日数は45日ですが、回収を5日分早めて40日に改善した場合、現金・預金が131,500千円になり、<現状推移分>よりも7,000千円の資金が増加します。

< 売上債権の改善分 >

< 現状推移分 > より
7,000千円の資金増

科目名	開始残高	(構成比)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	(構成比)
当座資金			16,667	26,500	37,000	47,500	58,000	68,500	79,000	89,500	100,000	110,500	121,000	131,500	64.0%
流動資産															
固定性預金															
受取手形															
売掛金	60,000	76.9%	55,333	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	27.3%
商品	18,000	23.1%	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	8.8%
未収入金															

3. 棚卸資産の日数改善による“現金・預金”残高

棚卸資産の残日数は18日ですが、回転を3日分早めて15日に改善した場合、現金・預金が127,650千円になり、<現状推移分>よりも3,150千円の資金が増加します。

< 棚卸資産の改善分 >

< 現状推移分 > より
3,150千円の資金増

科目名	開始残高	(構成比)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	(構成比)
当座資金			10,000	22,650	33,150	43,650	54,150	64,650	75,150	85,650	96,150	106,650	117,150	127,650	62.1%
流動資産															
固定性預金															
受取手形															
売掛金	60,000	76.9%	62,000	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000	30.6%
商品	18,000	23.1%	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	7.3%
未収入金															

4. 仕入債務の日数改善による“現金・預金”残高

仕入債務の残日数は30日ですが、支払を10日分遅らせて40日に対応した場合、現金・預金が135,000千円になり、<現状推移分>よりも10,500千円の資金が増加します。

< 仕入債務の改善分 >

< 現状推移分 > より
10,500千円の資金増

貸借対照表

仕入債務の改善

平成23年4月1日～平成24年3月31日(第1期)

単位：千円

科目名	開始残高	(構成比)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	(構成比)
流動資産															
当座資金			20,000	30,000	40,500	51,000	61,500	72,000	82,500	93,000	103,500	114,000	124,500	135,000	62.5%
固定性預金															
受取手形															
売掛金	60,000	76.9%	62,000	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000	29.2%
商品	18,000	23.1%	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	8.3%
未収入金															

5. 売上債権と棚卸資産、仕入債務の全ての改善による“現金・預金”残高

上記の売上債権と棚卸資産、仕入債務のすべてを改善することにより、< 現状推移分 > よりも合計 20,650千円の資金が増加します。

これは、2ヵ月分の売上総利益に相当します。

< 棚卸資産と仕入債務の改善分 >

< 現状推移分 > より
20,650千円の資金増

貸借対照表

すべての改善

平成23年4月1日～平成24年3月31日(第1期)

単位：千円

科目名	開始残高	(構成比)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	(構成比)
流動資産															
当座資金			26,667	39,100	50,650	61,150	71,650	82,150	92,650	103,150	113,650	124,150	134,650	145,150	67.2%
固定性預金															
受取手形															
売掛金	60,000	76.9%	55,333	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	25.9%
商品	18,000	23.1%	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	6.9%
未収入金															

このように、改善効果を数値化し、かつ見える化することで、あなたの会社で実行可能な改善方法をシミュレーションして実現可能な資金を創ることができます。

本誌の内容の一部あるいは全部を無断で複写・複製・転載および磁気または光記録媒体、コンピュータネットワーク上などへ入力することは、法律で認められた場合を除き、著作者の権利侵害になります。

NEOC株式会社